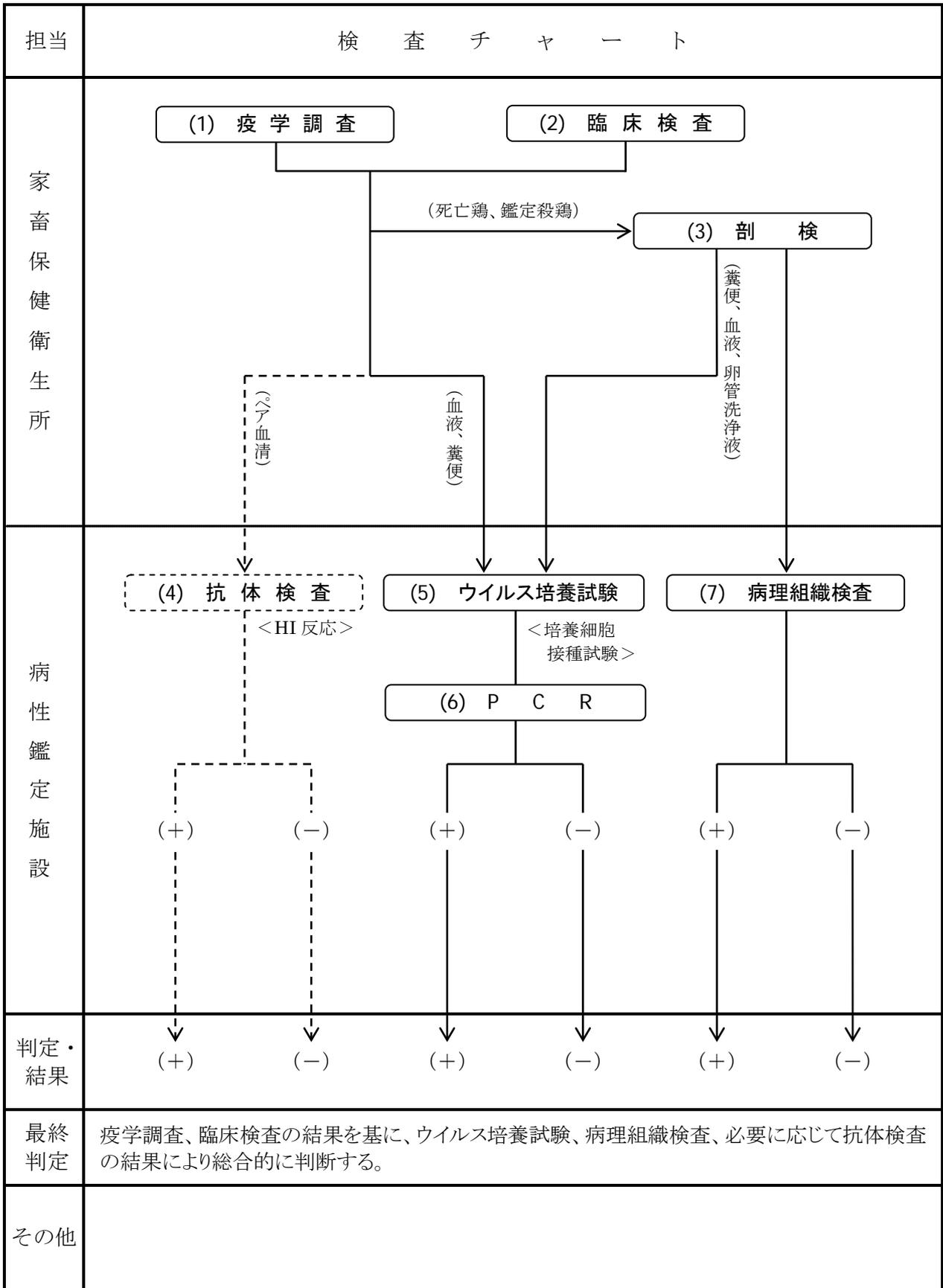


122 産卵低下症候群



→類似疾病検査

- ① 115 伝染性気管支炎
- ② 124 鶏脳脊髄炎
- ③ 110 ニューカッスル病・低病原性ニューカッスル病
- ④ 109 高病原性鳥インフルエンザ・低病原性鳥インフルエンザ・鳥インフルエンザ

○ 病原体:産卵低下症候群ウイルス;Egg drop syndrome virus [*Egg drop syndrome virus, Atadenovirus, Adenoviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 産卵開始期～産卵ピーク前後に多発する。
- ② 母鶏群でV字型、一過性の産卵率の低下

(6) PCR<sup>1)</sup>

材料:分離ウイルス  
用途:同定

(2) 臨床検査

- ① 無殻卵、薄殻卵、退色卵等の異常卵の産卵
- ② 5～50%前後の産卵率の低下がみられるが、4～10週で回復
- ③ 活力に乏しく、軟便を排出

(7) 病理組織検査

- ① 卵管子宮部子宮腺の変性萎縮、細胞浸潤、粘膜上皮細胞の核内封入体
- ② 核内封入体は峽部、膣部にも出現
- ③ 卵管漏斗部から膣部にかけて粘膜におけるリンパ濾胞形成

(3) 剖 検

卵管子宮部粘膜の軽度の水腫と腔内の白色滲出物

(参考文献)

・鶏病研究会編:鳥の病気.

1) Mase, M., et al.: J. Vet. Med. Sci. 71, 1239-1242 (2009).

(4) 抗体検査(HI反応)

ペア血清について行う。

(5) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

細胞:鶏胚肝細胞、アヒル胚線維芽細胞

材料:糞、卵管洗浄液、白血球

方法:37℃で接種後7日間程度培養、CPE 陰性ならば盲継代を繰り返す。3代行っても陰性ならば分離陰性とする。

判定:円形 CPE の確認、核内封入体、培養液のHA 性の確認、ウイルス遺伝子の検出